

第26号

令和2年3月発行
関市子ども会育成協議会
【事務局】
関市若草通2丁目1番地
関市生涯学習課内
TEL0575-23-7777

わかさ

題字：上田 清四

土器作り体験



インリーダー研修会



関市子ども会に寄せて

関市子ども会育成協議会会長 足立 雅彦

令和元年度(平成31年度)の関市子ども会活動を振り返ります。

5月の総会では、子育てに関わる講演会を行いました。「我が子をいかにしてアーチエリー世界大会に出場させたか」と題し、お子さんをアーチエリー世界大会に導いた奥山いづみ様のお話を聞きました。子どもをいかにして表舞台に出すか、動機付けや親としての心構え等を講演頂きました。

9月末には高山市にて東海北陸地区子ども会育成協議会が開催され、分科会で関市子ども会の岩田さん(関市顧問卓常任理事)が提案を行いました。東海北陸6県1市(名古屋)の参加者に対して、関市子ども会の活動を例に、参加者に話題提起することで、さらなる活動内容の向上を促すとともに、研鑽を積む場となりました。

地域の子ども会活動については、単位子ども会に少額ですが活動助成金を出すことにより子ども会活動の活性化を図っています。近年、少子化に伴い中心部や旧郡部の単位子ども会では、活動が厳しい所が出て来ています。子どもが少なくなったところでは、近隣の子ども会と合同で活動することが見られる様になってきたのも近年の特徴です。更に安校校区のように、PTAの尽力により子ども会活動(地域子ども会)の復活がされたところもありました。現在、子ども会活動(地域子ども会)の無い地域にも、何かお手伝いができればと考えています。

関市子ども会には、子ども会活動を支援する中高生のボランティア組織として、ジュニアリーダーズクラブが在ります。年間の主な活動では、小学校高学年を対象とした子ども会のインリーダー研修会の運営、単位子ども会の要請によるレクリエーション等の活動指導、関市の成人式等各種行事の受付進行などのお手伝いを行っています。今年度は、美濃ブロックの郡上市・美濃市のジュニアリーダーズクラブとの交流会を行いました。次年度以降、ブロック内のジュニアとの共同事業を模索していきたいと考えております。

東新田子ども会 倉知地区 田中 恵美

東新田子ども会は、山王通・十三塚・山王通西・栄町4丁目・栄町5丁目の5つの町内で構成され、40名ほどの子どもたちがいます。各町内の子どもの活動もありますが、12月のクリスマス会と3月の歓送迎会は5町内合同で行います。

毎年12月のクリスマス会では、1年生から6年生の子どもたち全員で公民館の掃除をして、ジュニアリーダーの皆さんと一緒にピンゴやレクリエーションをして遊び、お昼ご飯をみんなで食べます。

3月の歓送迎会は、新1年生を迎えみんなで映画を観て6年生を送り出します。

年々、子どもの数が減少してきているなか、他学年、近隣の子どもの貴重な交流の場となっており、今後も子どもたちのたくさんの笑顔がみられるよう、活動が続いていくことを願っています。

大岡山探検隊 富岡地区 井川 紀子

富岡地区では、第14回「大岡山探検隊」が行われました。

自然の中で遊ぶことが少なくなった子どもたちに、地域の自然とふれ合いながら、日常できない遊びや体験をしてもらい、地域の方たちとの交流を深めるという目的のもと、富岡小学校校歌にも歌われている大岡山に登りました。

頂上から小学校や関の町並みなどを眺めると、子どもたちの疲れも吹っ飛んだようでした。下山後は、ふもとの広場で、クイズ・パン食い競争・お菓子のつかみ取りなどのゲームや斜面を段ボールで滑る遊びをしました。この遊びは、子どもたちに大人気でした。

他には、富岡地区各種団体の方による豚汁・お団子・焼き芋・甘酒の配布もありました。中学生ボランティアや地域の方々のお手伝いもあり、とても楽しく過ごすことができました。

今後も地域の方たちと交流を深める活動として続いてほしいと思います。

スキー研修会 富野地区 佐藤 彰

富野地区では少子化が進み、子どもがいない、一人、二人しかいない自治会などがあつたり、少年団活動の多様化であつたり、塾や習い事など各家庭で日程を合わせづらくなつてきていることもあり、単位子ども会のみでの子ども会活動はほとんど活動実績の報告が無い状態です。

そのため、富野地区では全体の活動として、希望者のみですが毎年2月にスキー研修としてモンデウス位山スキー場へ出かけています。この活動は、いつから始まったかは不明ですが、私が子どもの頃からある富野地区の伝統的な行事ですので40年は続いていると思います。平成30年度も実施され、子ども約30名、大人20名ほどが参加しました。スキー・スノーボード初心者は、午前中、教室で指導を受けたり、親さんに教えてもらったりします。毎年の活動なので上級者の子どもたちは、子ども同士で自由に楽しめます。朝早くの集合ですが、行きバスの中ではピンゴを楽しむなど子どもたちは元気いっぱいです。しかし、帰りは一日スキーを満喫し眠ってしまう子どももいます。このスキー

向山子ども会 南ヶ丘地区 勝又 麻里子



向山子ども会は、自治会の方々と連携して4月に春祭り子どもみこしを行いました。御神輿の組み立て、花飾りや準備など、町内の多くの方々の御協力もあり、昼夜と町内を練り歩き、子どもたちの楽しそうな姿が印象的でした。

8月には、長寿会と自治会との連携で夏祭り盆踊り大会が開催されました。グランドゴルフ・輪投げ・くじ引きなど楽しい催し物のほか、自治会による出店もあります。そして暗くなってから盆踊りが始まりました。初めは恥ずかしがっていた子どもたちも大人を真似て踊りだし、地域の方々に関われる素敵な機会だと感じました。

12月末には、自治会と長寿会主催の餅つき大会が行われ、杵と臼で子どもたちも餅つきをさせて頂き、その後つきたてのお餅を頂きました。貴重な体験をさせて頂きありがとうございました。

クリスマス会では、ボーリング大会を開催しました。上手な高学年も初めてやる1年生もどの子もはじめは緊張した様子でしたが、2ゲーム終え表彰式でチーム賞を発表する時の喜び様は、見ていて気持ちの良いものでした。

3月には、新1年生と6年生の歓送迎会を行う予定です。年々、子どもたちの数が減ってきている今、地域の方々の温かい見守りと協力があつてこそ、子どもたちが居心地の良い環境で生活することが出来ていることに感謝いたします。これからも、子どもたち同士のつながりや地域の方々との触れ合いが、子ども会を通してできることを願っています。



研修は、私も小学生の頃に参加した思い出が今でも鮮明に残っているように、ゴーグル焼けした笑顔とともに、子どもたちの心に残ってくれると思います。

常任理事・子ども会活動について

初めて常任理事として関市の子ども会活動の現状を見させていただきました。まず、左記にもある通り、昔と違い各家庭で子どもたちに体験させる内容が多様化しています。また、母子・父子家庭の増加、共働きなど保護者の仕事や家庭の状況なども多様化しています。そのため、関市の子ども会活動のチラシを見ても日程が合わなかつたり、予定が合わなかつたりします。自分の子どものことではないのに、役員になったからと仕事を休むこと、「役員なんだからやって当たり前」という風潮には少し違和感を覚えます。

インリーダー研修会、土器づくり・土器焼き体験など、参加者の保護者からボランティアを募集するなど、活動自体のあり方を考える時期に来ているのではないのでしょうか？

山の講

下有知地区 野口 味紀



関市下有知中組子ども会の12月行事「山の講」について報告させていただきます。

中組子ども会は、現在1年生から6年生まで16名の子どもが在籍しています。「山の講」は、毎年12月上旬に氏神様である「八幡神社」にて行われます。男児のお祭りと言う事でひと昔前までは山の中に女兒は入れませんでした。現在は女兒も参加しています。

当日の朝に5,6年生の男児は、保護者さんと一緒に神社の清掃に行きます。縄飾りも取り付けお祭りの準備をします。

お祭りのときは5,6年生の男児がその年に実った藁で作った「船」と言われる器を肩に下げ、お参り時にニンジン・ダイコン・雑魚などにお神酒をかけたもののお供えを食べます。ならわしとは言え子どもたちには不評です。

その後、公民館に戻って来て、昼食として保護者の作ったカレーライスとフルーツポンチを食べました。子ども会の行事ということで高学年が準備してくれたゲームで遊んだり、景品がもらえるビンゴゲームをして楽しみました。

中組子ども会では、年々子どもの人数も減って、年間の行事も少人数で行うようになってしまっています。それでも春は、中組自治会主催のお祭りで、子ども会からも踊りや獅子舞保存会の協力による笛や太鼓の披露、夏はラジオ体操、ポーリングへ行き交流会、冬は山の講、歓送迎会など行事を減らすことなく続けています。子ども会というものを通して子ども社会の大切さを考えて、みんなで行動する力を身に付けてほしいという思いのもと、保護者も頑張っています。現在ではいろいろな難しい面もありますが、子どもたちがビンゴの景品でほしいものを手にした時の笑顔を見ると子ども会を少人数でも残していけるような社会になってほしいと思っています。

おもしろ体験

旭ヶ丘地区 小瀬木 宏

旭ヶ丘地区では毎年、夏休み期間に『おもしろ体験』として小学校内で6年生児童が、ダンボール基地の作成、夕飯の炊き出し体験、夜の肝試しなど、一日学校で宿泊する企画を行っております。

以前はダンボール基地にて寝泊まりをしておりましたが、熱中症対策のため教室でエアコンを使いながらの宿泊となっておりますが、万が一の被災時にダンボールを使ってお仮設施設の作成や炊き出しなどを遊びの中で体験できる企画です。



毎年、多くの親御さんの協力を頂きながらの運営となりますので、親御さん同士のコミュニケーションを広げる一助になればと思います。

年齢を超えた繋がり

上之保地区 中島 健太郎

上之保地区の子ども会は、どこの地区でも少子化が進み、今回紹介する船山子ども会も子どもたちの人数が10名に満たない状況です。

そのような中ですが、今年度新たに子ども会でのバーベキューを行い、様々な子どもたちの成長が見られました。それは年上の子どもたちが、みんなで並んで食べる中で小さい子たちに取り分けたり、食べやすいように手伝ってあげたりする姿です。また遊ぶときには同年齢で固まることなく、小さい子が怪我をしないように気をつけながら、水遊びなどを楽しんでいました。これらの姿は、少子化の進んだ昨今においては子ども会のある意義だと感じられます。

また親同士も普段ゆっくり話をすることがない中で、子ども会というものを通じて、子どもについて、お互いについて、知り合う良い機会となりました。

今後も、子どもたちの成長と親同士の絆を深めるための様々な体験の機会が設けられるよう、取り組んでいきたいと感じております。



ニコッと笑顔になる関わり合い

瀬尻地区 森 智紗子

星ヶ丘子ども会は、ここ近年で最多の人数となる90名の会員がいます。

4月は神輿祭り、7月と8月はラジオ体操とポーリング大会、12月は公民館でクリスマス会、3月は歓送迎会を行います。

中でも一番印象に残っている行事は、夏休みに行われるポーリング大会です。バスに乗り、公民館からポーリング会場に出かけます。ポーリングを初めてやる子ども、何度もポーリングをやったことがある子どもなど、経験は様々です。チームは、あらかじめ異年齢で構成されるよう役員で決めておきます。大人数ということもあって、中にはチーム内で初対面同士の子ともいます。しばらく子どもたちの様子を観察していると、最初はガチガチに緊張している子どもも、ポーリングのピンが倒れるとニコッと笑顔になり、ストライクが取れると満面の笑顔で「よっしゃー!」と、チーム内でハイタッチをする姿がみられました。

2ゲームのポーリングをやった後は、もうすっかり仲良しです。ポーリングを通して異年齢の子どもたちが、ポーリングのピンを倒すためのコツを教え合い、うまくいくと笑顔でハイタッチする関わり合いができた行事になったと思います。

今後もさまざまな活動を通して、子どもたちが笑顔で関わり合いができる機会を作れるよう、地域の見守り隊として支援していきたいと思っています。

大人みんなで関われる子ども会に

本部役員 小鞠 敦

縁あって本年度より本部役員に加えていただくことになりました。

子どもの数が減っていく中、地区の子ども会活動の企画運営は難しいと察します。そんな中でも、役員会や本部主催のイベントに参加される地区役員の方々に拜見するにつけ、いずれ親として自らの子に同じように活動していく子たちに、良い記憶を残すことができるよう、私も何かしら力になればと思う次第です。

私も町内の子ども会担当をやったことがあります。毎年変わる役の中では、毎年同じ活動を行うのがやとなのかと感じました。子どもの数が少なくなれば、その親だけでの子ども会の運営では、縮小していくのは必然です。

少子化は変わらず進行していますが、子ども一人ひとりの経験を減らしてはいけません。子どもは故郷の宝として、育成協議会本部、地区の子ども会が中心となって、自分に対象の年齢の子がいるか否かにかかわらず、みんなで関わっていくようにできればと考えています。

武芸川子ども会育成協議会

武芸川地区 井藤 久義

武芸川地区では、13の単位子ども会で構成された武芸川子ども会育成協議会があります。毎年、子ども会のリーダーが研修を通して親善を深めるとともに、リーダーとしての資質を向上させ、単位子ども会の活動に役立てることができるようにと、5・6年生を対象にインリーダー研修が行われています。今年度は6月にドッチボール大会を行いました。博愛小学校、武芸小学校、寺尾小学校の3校から希望者が集まり、男の子も女の子も交えた小学校バラバラの3チームで対戦しました。違う学校の子ともすぐに仲良くなり、勝利を勝ち取るために協力しながら戦い、楽しむことができました。負けても仲間を責めることなく、次の試合で勝つためにチーム全員で作戦を立てる姿がありました。仲間と協力する姿や相手を思いやる姿を見て、単位子ども会でもリーダーとして活躍してくれるだろうと実感しました。そんなすてきなインリーダー研修となりました。

これからも武芸川地区では毎年インリーダー研修が行われると思います。この会で武芸川地区のリーダーがたくさん育成されることを願っています。

あいさつ運動

田原地区 日江井 涼子

田原小学校では、11月にあいさつ運動が行われました。関市のゆるキャラの「はもみん」や「うかる」が訪れ、あいさつボランティアをしてくれる子どもたちと一緒に、あいさつ運動を盛り上げてくれました。

登校した子どもたちが、昇降口に立っているゆるキャラの姿を見ると、低学年の子どもたちが嬉しそうに駆け寄りあいさつをする姿がたくさん見られました。高学年になると、あいさつをすることが少し恥ずかしそうにする姿が見られましたが、それでもあいさつをすると返してくれる子が多かったです。

朝元気にあいさつすることが、一日の活力につながるように、これからもあいさつを大切に、先生や友だちはもちろん、他の学年の子とも積極的にあいさつができると良いと思います。

生涯学習活動の重要性

本部役員 兼松 邦夫

近年、常識では考えられない事件が多く発生しています。本当に残念なことです。

当たり前のことが当たり前に行える。

我々の子育ては、社会の中に出てから子どもたちが、いろいろな苦難にあっても生きてきた試練の中から培ったものを活かして乗り越えていく、そうした心構えを育ててきた様に思います。

世の中の移り変わりは、有無を言わず、その当たり前をどんどん変えていってしまったのでしょうか。

私も永年、子ども会、PTAなどの生涯教育・生涯学習という活動に参加させて頂きましたが、そうした活動もすべて子どもたちと遊びながら「当たり前のことが当たり前に行える」を教え、見守っての活動であったと思っております。

生涯学習・生涯活動、言葉は非常に肩が張るような広く取り留めのないものですが、「当たり前のことが当たり前に行える」そうした、子どもたちを育て、見守っていくことだと思えます。

子ども会活動の重要性を知って頂き、そしてその活動に参加して頂く。当たり前の人間、常識を知る子どもたちを育てるための子ども会育成活動に、お力をお借りしたいと思います。

親子ボランティア清掃活動

安桜地区 東山崎 鮎美



安桜地区では、夏休みに親子ボランティア清掃を行いました。清掃場所は、安桜小学校の校庭と、校内です。

普段の学校生活の中で行う清掃ではなく、体育館のワックスがけをしたり、トイレの換気扇の掃除、校庭の側溝に溜まった泥や砂を汲み上げたり、高枝ばさみを使って藤棚の大きな枝を切り落とすなどの特殊な清掃を行いました。子どもたちにとっては、新しい経験だった子どもたくさんいたようです。

安桜まちづくり協議会のみなさんにも参加していただいたので、地域・多世代交流の場にもなりました。

子ども時代の経験は、すべてプラスの成長であると思います。家族以外の大人との関わり、家庭の中ではできない特殊な体験。実体験による経験値の積み重ねが自信を育み、たくさんのお会いが選択肢を広げてくれるような気がします。

その他にも土器づくりや、インリーダー研修など、関市子ども会の活動を通じて、この貴重な子ども時代に様々な経験の機会をつくる事ができました。ありがとうございました。

